



東京の会通信

No.298

2021年9月1日号
(隔月1日発行)

発行：骨髄バンクを支援する
東京の会

〒101-0031 東京都千代田区
東神田1-3-4 KTビル3階

TEL：03-3866-8171
(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>
e-mail:marrow_tokyo@yahoo.co.jp

定価 100 円

第32回東京の会総会は、 Zoomで開催しました

2021年6月26日、東京の会第32回定期総会を開催しました。新型コロナウイルス感染拡大が止まらない状況なのでZoomを使用したWEB開催とし、21名のメンバーが参加しました。

東京の会では、2020年3月以降に予定されていた活動について、新型コロナウイルスの感染が拡大し緊急事態宣言が発令されたため、すべてが自粛になりました。そんな中でも会報「東京の会通信」は、編集委員が集合せずリモートで編集・校正する方法に切り替え、中断することなく作成しました。ただし3月は緊急事態宣言の真ただ中となったため、複数の集まる会報発送「おりおり」は自粛し、3月号は5月号に同封する形で5月のおりおりで皆さんの元に発送しました。

毎月開催していた定例会は、2020年3月4月は大勢で集まることが感染拡大につながるもので中止としました。5月にいつも定例会に参加するメンバーでZoomを活用したWEBでの会議を実験的にこない、各自のパソコンやスマホでZoom画面を通して顔を見ながら話せることを確認しました。そこで6月の定例会は新宿の会議室からZoomを発信し、画面を見ながら意見交換をおこない、2020年6月27日に東京の会第31回定期総会をZoomにて開催し全議案の承認を得ました。

しかしその後の活動では、例年開催されていた新宿でのライオンズクラブ主催の東日本震災復興支援イベントや、東京マラソン、桃源郷マラソン、予定していた献血ルームでのドナー登録活動などが、感染予防のため中止となり、またその後の品川宿場祭りもグリーンリボンランニングフェスティバルも中止なり、秋の恒例のピアノ三重奏コンサートも残念ながら開催を諦め、骨髄バンクの普及啓発活動は滞ってしまいました。東京の会の活動も、定例会はZoomを利用したWEB開催、会報発送おりおりは、体調が良い人によって感染防止策を十分とりながら少人数でおこなうという形で縮小して継続しています。

以下に、東京の会第32回定期総会の議案書を掲載しますのでご一読ください。



Zoomにて21名が参加

11月会報発送 「おりおり」のお知らせ

【注意！】今年から会場と曜日が変更となりました！

東京の会事務所移転に伴い、おりおりは
全国協議会事務所での開催となります。

日時：11月7日（日）14時00分より

※発送作業は会報が発行される奇数月のみとなります。

場所：全国協議会事務所（千代田区東神田1-3-4 KTビル3階）

交通：都営新宿線「馬喰横山」駅	徒歩 5分
都営浅草線「東日本橋」駅	徒歩 7分
東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅	徒歩 7分
JR総武快速線「馬喰町」駅	徒歩 5分

※今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入し発送します。どなたでもご参加いただけますが、必ずマスク着用の上、患者さんや元患者さん、持病のある方やご年配者など、感染リスクの高い方はご無理のないようお願い致します。

※1月「おりおり」予定・2022年1月9日（日）14時00分より

2020年度 東京の会 活動報告

2020.4.1～2021.3.31

■総会・定例会・おりおり（会報発送作業）

- (1)定期総会 第31回定期総会 6月27日開催
ZoomによるWEB開催
- (2)定例会 毎月第4土曜日10回開催
ZoomによるWEB開催
※4月・5月は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止としました。
- (3)おりおり 隔月第1土曜日4回開催（5・7・9・11月）
（於：品川運輸会議室）
隔月第1日曜日2回開催（1・3月）
（於：全国協議会事務所）
（東京の会会報等、発送作業）
※11月22日に事務所を全国協議会事務所内へ引っ越したため1月以降全国協議会事務所にておりおりをおこなっています。

■ドナー登録会

- (1)日赤献血ルームでの献血・骨髓バンクドナー登録推進活動・献血者数

7/11（土） 新宿東口駅前献血ルーム
ドナー登録者8名 献血者124名

7/24（金） 新宿東口駅前献血ルーム
ドナー登録者3名 献血者123名

8/27（木） 有楽町献血ルーム
ドナー登録者5名 献血者177名

9/23（水） 新宿東口駅前献血ルーム
ドナー登録者7名 献血者81名

10/11（日） 有楽町献血ルーム
ドナー登録者10名 献血者213名

10/23（金） 新宿東口駅前献血ルーム
ドナー登録者5名 献血者83名

11/26（木） 有楽町献血ルーム
ドナー登録者2名 献血者173名

12/5（土） 新宿東口駅前献血ルーム
ドナー登録者12名 献血者131名

12/16（水） 新宿東口駅前献血ルーム
ドナー登録者7名 献血者103名

2021/3/13（土） 新宿東口駅前献血ルーム
ドナー登録者7名 献血者115名

3/25（木） 有楽町献血ルーム
ドナー登録者5名 献血者158名

2020年度実績11回 ドナー登録者71名 献血者1,481名

(2)献血ルーム以外での登録会

8/31（月） 西東京市役所田無庁舎 献血併行登録会
ドナー登録者4名 献血者52名

3/29（月） 西東京市役所田無庁舎 献血併行登録会
ドナー登録者4名 献血者47名

2020年度実績2回 ドナー登録者8名 献血者99名

(3)2020年度献血ルーム活動のまとめ 松下倫子

（東京の会ドナー登録担当 地区普及広報委員）

2020年の年明け早々に、4月から始まる次年度の献血ルーム活動の計画を練っていた時には、コロナの感染がこんなにも大きく長く続くものとは想像もしていませんでした。

東京の会では献血ルームでの活動当初から有楽町と新宿東口駅前の2つの献血ルームで長年登録会を行ってきました。そのため最近では既登録者が増えて来た

ので2020年度は曜日を変えて実施しよう、参加出来る説明員が減って来ているので昼休憩を交代で取る人数が確保出来ないから午後だけ（13:00-17:00）の活動にしよう、と考えて年間19回の登録会を計画しました。

ですが、4月スタート時には緊急事態宣言が出て、東京の会は6月末まで全ての活動を休止しました。7月から献血ルームでの活動は再開しましたが、コロナ感染拡大防止策として献血ルームでは献血が予約制になり、時間通りに献血してもらうために予約の人にはドナー登録の説明が出来ないルームもあって、厳しい活動が続きました。また、東京の会の説明員の中には元患者さんや高齢者もいるので、コロナ感染が心配で活動に参加したくても出来なくて辛い思いをしている説明員もいます。

2021年に入ってから再度緊急事態宣言が出たため1月と2月はまた活動休止しました。3月になって、当初の予定から緊急事態宣言は延長されましたが、休止が続くのは忍びなく、感染予防対策を徹底しながら3月は有楽町と新宿東口駅前の両方で1回ずつ実施しました。結局19回予定していたうち8回休止して、2020年度は11回献血ルームで登録会を行い、全部で71名に登録していただきました。

ところで東京の会では献血ルームの他に西東京市でも、市役所での献血の際にドナー登録会を併行で実施しています。コロナ禍であっても西東京市役所健康課と東京都赤十字血液センター武蔵野出張所のご理解とご協力をいただいて、昨年度も8月と3月に田無庁舎で献血併行ドナー登録会を行い、合わせて8名の登録がありました。

昨年活動に参加した説明員は、コロナ感染の不安を感じながらも日々の健康管理に務め、参加に当たっては検温や消毒、マスクの着用はもちろんのこと、説明の際には透明シートを張った衝立て越しに、あるいは正面に座らないよう椅子をずらして距離を取って、マスクでも声が通るようにハッキリ話すよう気を遣いながら登録会を務めてくださいました。本当にお疲れ様でした。

昨年度東京の会では3名が研修を受けて新たに説明員に加わりました。まだまだコロナの影響を受けながらの活動が続くと思われますが、2021年も東京の会として出来る範囲内でドナー登録推進活動を続けていきたいと思っています。

■東京の会事務所移転について

寄付金の減少による活動資金の枯渇が著しいため、事務所賃貸料を節減するため全国協議会事務所へ同居する事を全国協議会理事会に提起して了承されました。その後、大家さんとの協議も行い、全国協議会内の約3坪のスペースを月額16,500円で東京の会事務所として同居しました。

〈全国協議会理事会への同居のお願い文書〉

- 2011年までは東京の会は全国協議会に同居し、その一部を事務所として使用していた。
- 2012年1月、全国協議会事務所の馬喰町移転に伴い、東京の会の同居が認められなかったため事務所として東京の会独自で賃貸物件を借用することとなった。
- その後、定例イベントの取りやめや寄付金の減少により活動資金が以前のように積み立てられなくなった。資金

減少への解決策として、毎月発行していた会報「東京の会通信」を隔月発行とし、発行部数も減少させ資金の節約に努めた。(2012/7より隔月発行部数1,200部⇒600部、年間経費約100万円の節減)その他の経費も含め節約に努めたにもかかわらず、この間の経過の中で2011年度決算では約530万円だった予算規模が、2018年3月末決算で240万円まで減少、半減している。このままでは通常のボランティア活動にも大きな影響が出るため、事務所賃貸料(約60万円)を見直すしか方法が見つからない。

- そのため事務所を解約し賃貸料の支払いをなくし、全国協議会事務所へ同居させていただきたい。過去にも同居していた実績もあり、全国協議会の加盟団体で活動は一体であり、同じ東京でお互い協力しながら活動をしているので、東京の会事務局の運営場所として、全国協議会の事務所に同居させていただきたい。

11/22・23で新宿から馬喰町の全国協議会事務所へ引っ越し、会報発送スペースも確保できるので、1月より品川運輸で行っていた「おりおり」も全国協議会事務所で行っています。20年以上無償で会議室を利用させていただいた品川運輸様に大いに感謝いたします。また東京マリンロータリークラブ(現東京港南マリンロータリークラブ)様から寄付いただいた紙折り機は会報発送の時間短縮に大いに役立っています。紙折り機は全国協議会事務所でも有効活用しています。

4患者支援活動

(1)医療その他セミナー

例年、総会の後に、医療講演会やシンポジウムを開催していましたが、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、総会をZoomによるWEB開催としたため、開催が出来ませんでした。

5東京都への要請について

新型コロナウイルス感染拡大で対面での要請が出来ませんでした。

6普及広報活動

(1)会報「東京の会通信」発行

隔月1日発行(奇数月)／第1日曜日発送／6回発行(No.295/2021年3月1日号まで発行)

会報と共に、骨髄バンクニュース、イベント案内、その他適宜、発送

※No.289/2020年3月1日号は、新型コロナウイルス感染拡大のためおりおりが中止となり、3月に発送できず、No.290/2020年5月1日号に同封して発送。

(2)セミナー・講演会・イベント開催および参加

新型コロナウイルス感染拡大のため、東京の会主催の講演会は開催出来ませんでした。

5/30 全国協議会総会 加盟団体として全国協議会総会へ参加。

※新型コロナウイルス感染拡大のため全国ボランティアの集いは延期となりました。

11/14-15「スノーバンクイベント2020」(代々木公園)

に参加。荒井daze善正さんが代々木公園に雪を降らすスノーボードイベント。今年も代々木公園に2日間献血バスを誘致。2日間で、骨髄ドナー登録85名献血272名。東京の会説明員3名ボランティア4名。新型コロナウイルス感染防止対策として、入場口以外からは会場に入らず、検温・消毒飲酒禁止・マスク着用・密を避けるなどの対応を取りました。

2/29 全国協議会 関東甲信越ブロックセミナー

こくみん共済coop 3階会議室

東京・神奈川・千葉・埼玉・新潟からボランティアが参加。東京の会から7名が参加。各地のドナー登録会の開催方法や日赤・行政との関係など経験交流。

3/14 東京新都心ライオンズクラブ他東日本大震災復興支援チャリティー

新型コロナウイルス感染拡大のため東京都に緊急事態宣言が発出され、チャリティーイベントは中止。しかし献血が減少している状況を鑑み、東京新都心ライオンズクラブと西新宿角三会が中心となり新宿中央公園に献血バスを配車し「献血&ドナー登録会」を予定より1週間延ばして実施。東京の会で説明員を準備し、事前予約システムにて対応。説明員9名ボランティア5名。骨髄ドナー登録21名献血94名。



東京新都心ライオンズクラブ献血&ドナー登録会

《例年開催していた以下のイベントは、新型コロナウイルス感染拡大のため中止となりました》

◇新宿熊野神社祭礼・西口睦イベント会場で骨髄バンク普及啓発と募金活動

◇品川宿場祭り 東京港南マリンロータリークラブに協力 普及啓発活動・バザー出店

◇グリーンリボンランニングフェスティバル

◇東京の会チャリティーコンサート「響」

◇箱根駅伝沿道にてのぼりを立てて普及啓発

◇東京マラソン沿道応援

以上

日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー (令和3年7月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	533,938	67,699	62,301
6-7月登録分	5,352	887	473
6-7月抹消数	4,492	571	—
実質登録増	860	316	—

患者とドナー登録・適合状況(7月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計) 865,994人

ドナー登録抹消者数(累計) 332,056人

HLA適合報告ドナー数(累計) 344,100人

実質登録患者実数(現在) 1,799人(国内1,282人)

HLA適合患者数(累計) 49,556人(患者累計数の79.5%)

非血縁移植実施数 25,727例(6-7月実施222例)

2020年度 決算報告

【収入の部】		【支出の部】		【資産増減明細】		
会費	210,000	収益事業費	0	資産内容	繰越資産期末	前年度繰越期首
寄付	1,146,817	業務諸経費	287,871	現金		38,494
賛助会費	0	通信発送費	340,394	郵便振替口座	494,757	1,062,228
事業収入	0	光熱費	5,884	郵便貯金	853,364	471,972
受取利息	10	交通費	30,000	普通預金	128,843	50,382
助成金	22,500	普及広報費	313,500	敷金	0	45,000
		賃借料	463,290	差引	1,476,964	1,668,076
小 計	1,379,327	損害保険料	5,100	当期余剰金		▲ 191,112
		全国協議会会費	120,000	合 計	1,476,964	1,476,964
合 計	1,379,327	支払手数料	4,400			
		慶弔費	0			
		小 計	1,570,439			
		当期剰余金	▲ 191,112			
		合 計	1,379,327			

＜収支差額＞
収入－支出＝▲191,112

＜資産増減＞
期末－期首＝▲191,112

2021年度活動方針

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2020年度の東京の会の活動は大きな制約を受けました。2021年度に入っても、再び緊急事態宣言が発令されたため実質的な活動はできていません。

このため、2021年度については、「新しい生活様式」に即して感染予防を図り、感染状況等を勘案しつつ以下の活動を行います。

〈1〉ドナー登録推進

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、ドナー登録者数が減少しています。日本赤十字社と連携して、献血ルーム等におけるドナー登録推進活動を行い、一人でも多くのドナー登録者の確保に努めます。

〈2〉患者・患者家族への情報提供と支援

新型コロナウイルスの感染拡大は医療機関や医療関係者に大きな負荷をかけており、血液難病患者の治療にも影響が出ることが懸念されます。また、感染した場合のリスクが高いため、不安を抱えている患者も多いと思われます。患者の闘病に役立つ情報を発信するとともに、患者・医療関係者に対する具体的な支援を検討します。

〈3〉骨髄バンクの普及啓発活動

会報やインターネットを活用した情報発信をおこな

うとともに、イベントの開催や地域における普及啓発活動については、新型コロナウイルス対策による社会的な規制を踏まえたうえで実施します。

〈4〉より機能する移植医療を目指して

新型コロナウイルスの影響により血液難病患者の治療に支障をきたすことのないよう、日本骨髄バンクや日本赤十字社、厚労省、東京都等に必要な対策を求めます。

また、東京都に対して、ドナー支援制度の全自治体での実施や、ドナー説明員養成、ドナー休暇制度の普及啓発などの政策実施を要望します。

〈5〉持続可能なボランティア活動に向けて

「新しい生活様式」に即したボランティア活動を実践するとともに、会計収支改善、新たな活動の担い手の育成などを進め、東京の会の活動の持続を図ります。

2021年度東京の会役員

《代 表》 三瓶 和義
《代表代理》 若木 換
《事務局長》 二見 茂男
《事務局次長》 光江 健太郎

《会 計》 石崎 保夫
石崎 友子
《会計監査》 大塚 和博
竹崎 恵子

《業務監査》 柴谷 みち子
名川 一史
《顧 問》 野村 正満
新田 恭平

命のしずくをいただいて

長内 芳江

Message from Recipient

私が急性骨髄性白血病と診断されたのは、今から八年前の三十五歳の時でした。その頃私は息子を四か月前に出産したばかり。予定日より二か月早く未熟児で生まれました。ようやくNICUから退院して、夫と7歳の娘との賑やかな生活を始めた所でした。

きっかけは持病の喘息のために受けた定期検査。少し前から微熱や息さはあったものの、夜中の授乳で疲れが溜まっているのだらうと思っていたので、専門の病院を紹介された時にはとても驚きました。

その後告知を受けたがんセンターではその日の内に入院となり、一変した現実には悪い夢を見ているようでした。すぐに夜から抗がん剤が始まりました。夜中、いつもの授乳時間になると胸がパンパンに張り、あげられなくなった母乳を泣きながら搾ったことを覚えています。

その後の検査で移植をしないと完治が望めないことがわかり、骨髄バンクに患者登録することになりました。実はその時私はバンクのドナー登録者でもありました。保健師学生の頃、叔母が白血病になり、何かできることはないか考えていた時に実習先の保健所で登録会があり、申し込みました。

バンクに電話をし、白血病になり患者登録するのでドナー登録できなくなったことを伝え、担当の方は受話器越しに声を詰まらせ、「今までありがとうございます。一日も早くドナーさんが見つかるようお祈りしています。」と声を掛けて下さいました。

実際提供する機会には恵まれませんでした。時々送られてくる会報で元気になられた方の体験談を読んでいたので、「次は自分が」と力が湧いてきました。HLAの型が珍しいタイプとのことでしたが、一座不一致で候補の方が最終同意まで進まれていることがわかり、秋の移植を予定して治療が始まりました。

自分の中では「順調に進めば、年内には家に帰って息子の一歳の誕生日を一緒に祝えるかもしれない」と青写真を描いてしまっていました。しかし実際は、ご家族が心配されて提供を断念するとの連絡がありました。私自身もドナー登録をする際、全身麻酔や採取方法を両親が心配していたので、ドナーさんの状況を理解することができました。しかし、移植に向けての治療も始まっていたので、このまま誰も見つからなかったらどうしようと不安で夜も眠れませんでした。その後二番目の候補の方が提供して下さいになり、無事11月中旬、予定より二か月遅れて移植ができました。

移植している間、家族と主治医の先生と、点滴でぼたりぼたりと落ちて、しずくが管から体に入っていくのを見つめていました。その時先生が「思いの詰まった

命のしずくですね」と呟られました。移植治療が始まったのは1990年代からで、それまでは薬で完治できない多くの方が亡くられたこと。いま受けられている治療はたくさんの方の想いがつながって受けられていることなど話して下さり、感謝の気持ちで一杯になりました。前処置からの強い吐き気で、一時は水も受けつけなくなりましたが、体調が落ち着き2月に退院となりました。

しかし数か月後、残念ながら再発してしまい、再移植には時間の猶予がなかったため、臍帯血移植の実績のある虎の門病院に転院しました。再移植は前回よりも抗がん剤の吐き気が強く、GVHDによる発熱や腹痛、それが治まると膀胱炎や帯状疱疹など次々辛い症状が現れました。加えて自宅から遠く離れて家族とも頻繁に会えず、寂しさで一人涙することもありました。

そんな時は同じ病室の患者さん同士“患者あるある”を言って辛い状況を笑い飛ばしたり、“なんで自分が”というやるせなさを言い合ったりすることで気持ちが楽になりました。また、先生や看護師さんも良い所を見つけて下さる名人でした。「昨日より座り方に力がありますね!」、「症状が強いということは悪い細胞も苦しんでいますからね」と常に前向きな言葉を掛けて下さいました。そして何より、家族の存在です。短い言葉ではありましたが（笑）毎日電話で気遣ってくれる夫。「私とママは心が繋がっているから、私が泣いているとママも悲しくなっちゃう。だから笑顔で待ってるね」と言ってくれる娘。時々しか会えないのに、ママだとわかって膝にのつてくる息子。家族の存在が私を強くしてくれました。また、何の引き継ぎもない中、育児を担ってくれた夫の両親。二年前の東日本大震災で自宅や友人をなくし、大変な中、いつも面会に来てくれた両親。その他姉や友人など、沢山の支えがあって二度の移植を乗り越えることができました。

移植から六年半が経ち、娘は高校一年生、息子は小学三年生になりました。GVHDによる皮膚や関節のこわばりなどの症状はありますが、娘の時にはできなかったPTA活動や家族のお弁当作りなど、今できることに幸せを感じながら暮らしています。そしてこの先、保健師として病気を経験して実感した健康管理の大切さを伝えていくこと、分けていただいた「命のしずく」が一人でも多くの方に届けられるようなお手伝いをすることが今の私の目標です。



心のこもったご寄付ありがとうございました。(2021.6.16～8.15)

竹谷内紀子さん 4,000円／名川一史さん 10,000円／櫻井洋子さん 5,000円／光江健太郎さん 30,000円
匿名希望 2,000円／比嘉由子さん 7,000円／影山賢二・一代さん 3,000円／西村政志さん 2,000円
(株)マルゼン 窪一昭さん 3,816円／(株)フューチャーマザーさん 6,000円／佐藤ときえさん 7,000円
南川英則さん 5,000円／大浦幸一さん 2,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。



▼この通信が皆様のお手元に届く頃には、パラリンピックの終盤にさしかかっているかと思います。コロナの新型ウィルスは、オリンピックの最中という最悪のタイミングで感染者数を急増させ、TOKYO2020は無観客開催など歴史上まれにみる五輪となりました。

▼今から100年前となる1920年開催の第7回アントワープ五輪(以下「ア五輪」)もスペイン風邪というパンデミック下で開催された大会でした。日本財団の佐野慎輔さんが書かれた「オリ・パラ今昔物語」「スペイン風邪とアントワープ大会」によれば、ベルギーは近隣国に比べて「奇跡的に感染拡大を免れた」国だったのではとありました。ベルギーはドイツとフランスに挟まれ欧州の十字路と呼ばれる国で、第一次世界大戦においては中立国でしたのに侵攻してきたドイツとの激しい戦いが繰り広げられました。

▼スペイン風邪はこの西部戦線から拡散していったと言われています。そのベルギーで本当にスペイン風邪が流行しなかったのか不思議に思いますが、いずれにせよこの大会が行われたことで五輪の火は消えずに済んだようですし、経済的にもオリンピック需要と公共投資がベルギー経済にはプラスに働き、その復興を早めたかもしれません。

▼他方、ドイツやハンガリー、トルコなどの敗戦国は参加できなかった五輪もありました。このア五輪は日本人が史上初めてメダルを手にした五輪ともなりました(テニスのシングルスとダブルスで熊谷一弥選手と柏尾誠一郎選手が銀メダル)。

▼今回の東京五輪の参加国数は205か国+難民チーム、選手数は約11,000人と、コロナ禍の中でもリオ五輪と

ほぼ同じ開催規模になりました。パラリンピックもほぼリオと同じ規模(選手数で4400人程)の参加が見込まれています。ア五輪時の29か国、2581人に比べると、欧州中心だった五輪が全世界規模になったことがよくわかります。

▼そしてもっとも顕著な変化は女性アスリート比率の上昇でしょう。ア五輪時の2%強から49%に高まっているということです。規模でも多様性でも100年前とは大きく変化し、ア五輪時ならせいぜいラジオでしか実況されなかった競技のほぼすべてをテレビやネットで見える時代になりました。

▼しかし、多すぎて自国選手を追うので精いっぱい、肥大化が懸念される状況も実感されます。そして、パンデミック。この古くて新しい課題に直面した東京五輪の経験、実績は、今後ともその評価、分析が進められ、歴史的な位置づけがなされてまた新たな五輪が生まれていくことでしょう。

▼東京の会にとっても池江選手の白血病からの復活や、大谷貴子さんの聖火リレーでの骨髄移植キャンペーンなど、記憶に残る五輪になったと思います。水泳の最後の種目400mメドレーリレーには池江選手をメンバーとした女子チーム、そして五輪4大会出場の入江陵介選手を筆頭にした男子チームがともに決勝に進出しました。ベテランから若手への立派なバトンリレーだったと思います。(K)

今年も開催！ 代々木公園に雪が降る！

毎年、秋の恒例となりました
「東京雪祭SNOW BANK PAY IT FORWARD
2021」、今年も開催します！

日時：2021年11月13日(土)・14日(日) 10時～17時
場所：渋谷区代々木公園B地区イベント広場

東京の会 「9月、10月定例会」 のお知らせ

9月25日(土)、10月23日(土) 午後5時30分より

会場：こくみん共済coop東京会館

(旧：全労済東京会館) 3階会議室

※JR新宿駅西口下車7分(新宿区西新宿7-20-8)

※地下鉄丸の内線西新宿駅下車1番出口徒歩2分

青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドウ」角入り右側

※11月定例会予定・11月27日(土) 午後5時30分より

定例会の開催については新型コロナウィルスの感染拡大状況を考慮し、オンライン開催も取り入れて臨機応変に対応して参ります。